病院周辺のおいしいお店紹介

前回のかわらばんから、お見舞いの患者様や外来受診をされた患者様が食事をとるのに困った時、「この近くでおいしいお店がないかな？」と感じた時にお役にたてればと始めた飲食店をご紹介する企画の第２回です。

労災病院正面玄関を入っていただくと売店のとなりにある院内のお店を今回はご紹介したいと思います。

お店の名前は「麺や　和（なごみ）」さんです。病院内のレストランからラーメン・そばの麺料理専門店に移行しました。その際、全職員が２週間にわたりおいしい麺をお届けするために研修を積みました。その際、調理手順や調味料の配合などそれまでの方法と全く違い戸惑ったと言います。お勧めは「味玉ラーメン」で、多い時には注文の40％程度を占める人気メニューです。味玉はひとつひとつ丁寧に手作りです。また、現在期間限定で「鶏塩そば」という、あっさり味の独自メニューをご提供しています。限定メニューは２ヶ月毎に更新し、これもお店の売りだそうです。

第２回　麺や　和（なごみ）

もともと、病院の中にあるレストランだけにゆったりとスペースをとり、車いすでも楽に出入りが出来るよう配慮されているのが嬉しいところです。

また、病院の中にあるという事で「麺のゆで加減」や「味付け」なども、お好みに応じて出来る限りご要望に応えるため努力しているとの事。こだわり派の方々にもお勧めですね。釧路のラーメン屋さんには珍しく、「濃厚スープ」「極太麺」がくせになります。病院内にあるので、表に出るのは面倒くさくなるこの時期にはピッタリのチョイスかもしれません。

営業は、平日10時～16時（ラストオーダー15時30分）です。皆さんもぜひ一度、足を運んでみてはいかがでしょうか？

担当　リハビリ科　田口　暢秀

頑張ったママと子供たち

放射線科看護師　野呂あゆみ

私は、昨年の６月から12月までの半年間、久留米大学認定看護師教育センターがん放射線療法看護分野を受講してきました。

半年間、夫や子供たちと離れ離れで生活をし、家族のありがたさを改めて感じることができたので皆さんにお話させていただこうと思います。

私は、２人目の育児休暇の後、放射線科外来に配属が決まりました。最初は、業務を覚えることが精一杯でしたが少しずつ放射線治療を行っている患者さんと接する機会も多くなりました。そこには治療を受け入れられぬまま治療を行っている方・不安を表出できない方・痛みを我慢している方・家族にも言えない思いを一人で抱えている方・様々な思いを抱えている患者さんがいました。１日の治療はたった５分程度ではありますが「ここに看護がある！！」と強く思うようになりました。しかし放射線治療の専門的な知識や技術がなければ、看護実践も結びついていきません。そう感じていたときに、がん放射線療法看護認定看護師教育課程が開校されたことを知り、受講したいと強く思うようになりました。受講するには、半年間家族と離れ離れで暮らさなければなりません。それは私にとってとても大きな壁でした。家族に話をしてもすぐには了承をしてもらえるわけもありません。半年かかり夫を根気強く説得して、ようやく了承をしてもらうことができました。それから家族の協力もあり、２月中旬の入学試験に合格することができました。

５月末福岡県へ出発の朝、小学１年生の息子が泣くのを必死で我慢している姿。祖父母の家へ送り出そうとしても泣いて離れなかった息子と娘の姿。これからの半年間母親が居ない寂しい生活をさせなければならないという思いに私も胸が張り裂けそうになりました。溢れ出しそうな涙をぐっとこらえ出発しました。

研修中の半年間は、辛くても絶対に泣かないと決めていました。涙が出そうになったときはいつも「私ばかりが辛いわけじゃない。残してきた子供たちのほうがもっと寂しくて辛い思いをしているんだから。諦めた姿は絶対に見せたくない」と自分に言い聞かせていました。研修は自分が想像していた以上に辛く・苦しいものでした。半年間毎日欠かすことのなかった家族との長電話が私の頑張る糧になっていたように思います。そんな家族の応援もあり、長かった福岡県での研修を終え、12月１日に釧路に帰ってきました。あんなに寂しがりやで甘えん坊だった子供たちが、一回りも二回りも大きく成長しているように見えました。寂しい思いをさせた子供たちをやっと抱きしめることができ、そのぬくもりを感じたとき「ああやっと終わったんだな」と思えました。

この半年間は、たくさんの方々の暖かく、心強いサポートがあったからこそ自分の夢に向かって第一歩を踏み出すことができたと思っています。感謝の気持ちをいつまでも忘れずに、皆さんに学んできたことを伝えていきたいと思います。

女性外来について

吉田眞子（ちかこ）

働く女性のための外来
勤労者医療総合センター
アスベスト疾患センター
29

平成17年3月より、女性医師による女性を対象とした女性外来を開設しております。

現在の日本では多くの女性が生涯を通じて働いています。また女性には家事、出産、子育て、介護と家庭における役割は軽減されないまま、働いているのが現実です。このような現状の中少しでも健康の維持、不安の解消に役立てればと女性外来が始まりました。全国労災病院では６病院で女性外来を開設しています。

では、実際はどのような患者さんが多いかと言いますと、

●女性医師にじっくり話を聞いてほしい。

〈身体的・精神的要素を含めて〉

●他医を受診したが、納得できないあるいは、よく医師の話がわからなかった。

●何科を受診して良いかわからない。

以上のような患者さんが多くみられます。全体を通してコミュニケーションの問題が大きな割合を占めています。

大きくは日本の医療の問題の改善が望まれますが、この様な事を言っても事はあまりにも複雑で、早い解決も望めません。たとえ焼け石に水状態でもどこかでじっくり話し合う場があった方がいいのではないかと思って外来を続けています。

※全予約制、午後診療です。

■問い合わせ先■

釧路労災病院　地域連携室
電話（0154）22－7191
内線2120

▶担当医師　子里代　眞香和　田中本　吉今辻

編集後記

地震、津波、そして原発事故。日本が大変なことになっています。被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

神経内科　津坂和文

ガンバレ、ニッポン!!

薬剤部　梶原　徹

今年は雪が少なくて、日一日と春の訪れを感じます。季節の変わり目です。お風邪をめさないように。

リハビリ科　田口暢秀

この度の震災では、道東も海岸線を中心に津波による被害が多数報告されています。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

栄養管理室　秋林千尋

誰も想像していなかったような大災害がおきて、大変なことになっています。でも、思いやり・我慢・協調、そんなことをあらためて考える機会になりました。

大変だけど、一緒に「和」をつくっていきましょう。

外来看護師　伊在井妙子

釧路の雪もすっかり無くなりました。今年も自転車通勤、畑仕事に励みたいと思います。明るい明日を目指しましょう!!

中央検査科　遊佐純教